

呑川を廻る市民活動

山本理平さんの思い出

山本理平さんと呑川の会



山本理平さんの思い出が詰まった
夫婦橋親水公園

東京の橋 水辺の都市景観(伊藤孝著)という本に大田区の橋が一つだけ登場しています。

それは、旧夫婦橋の架け替えをめぐる、「橋にご苦労さんの気持」と「呑川で命を落とした人への鎮魂と川の安全を祈っての気持」を含めて昭和57年(1982年)に行われた「橋供養」の話です。これを仕掛けたのが、山本理平さんらが作っていた「呑川的环境を考える会」と「東京の橋研究会」でした。

山本理平さんは同会の活動として、「呑川だより」、「呑川運河」という機関誌を出していました。その機関誌にもこの橋供養の話が載っています。現在では蒲田図書館などで目にすることができます。その他、区の出版していた「史誌」に「六郷用水は呑川をどこでわたったか」という論文を寄せたり、「糞谷の埋められた新田」という冊子を出したりしています。いずれも地域の歴史と、そこで暮らしたひとびとの営みをとても暖かい目で描いています。

山本理平さんは夫婦橋の近くに住み、この橋と呑川、そしてその傍らにあった公園を見守ってきました。夫婦橋親水公園改修にも、計画段階から区や都など行政にアイデアを出したりして、精一杯の愛情を注いで呑川の会と共に関わりました。

山本理平さんと呑川の会の関わりは、1996年「呑川から東京の川を考える」という区立池上文化センターでの連続講座の企画会に始まりました。この企画会には、池上自然観察会・内川をよみがえらせる会・城南タイムス・呑川環境を考える会・非行のない明るい街づくり池上地区・歴史教育者協議会の6団体から代表者が集まり、文化センターの事業として8回の連続講座を計画立案しました。

この講座終了後、受講者や山本理平さん等企画会のメンバーにより「呑川の会」が1997年5月に発足しました。それ以来、上記のように共に活動をつづけてきましたが、山本理平さんは2003年2月6日、79歳で亡くなりました。

(神原 健夫 記)

呑川の会web管理・編集者 工藤 英明 が、呑川は流れるー2004 から抜粋して、呑川の会公式ホームページに搭載しました。